

令和2年度 第1回射水市生活支援・介護予防サービス推進協議会 会議録

1 開催日時

令和2年8月26日（水）午後2時～午後3時40分

2 開催場所

射水市役所4階 401会議室

3 出席者

委員 宮嶋会長、門田副会長、若林委員、佐野委員、中川委員、牧野委員、
山崎委員、松浦委員、森山委員、武部委員、富田委員

事務局 福祉保健部地域福祉課 糸岡課長、杉谷副主幹、政岡課長補佐、小西主事、
野島主事、綿谷第1層生活支援コーディネーター
福祉保健部保険年金課 明課長
市民生活部地域振興・文化課 藤井課長補佐

4 欠席者

委員 砂原委員

5 議題

〈報告事項〉

(1) 射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について 【資料1】

〈協議事項〉

(1) コロナ禍での地域活動について 【資料2】

(2) 地域課題解決に向けた生活支援の取り組みについて 【資料3】

〈その他〉

(1) 今後のスケジュールについて 【資料4】

6 会議資料

【資料1】射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について

【参考1】射水市地域支え合いネットワーク事業実施地区一覧

【参考2】未実施地区の状況

【資料2】コロナ禍での地域活動について

【資料3】地域課題解決に向けた生活支援の取り組みについて

【資料4】今後のスケジュールについて

7 会議記録

○…各委員 ●…事務局

議題

〈報告事項〉

(1) 射水市地域支え合いネットワーク事業の進捗状況等について 【資料1】

質疑なし

〈協議事項〉

(1) コロナ禍での地域活動について 【資料2】

○高齢者にとって、ケーブルテレビでのきららか射水100歳体操（以下、「100歳体操」という。）放映は大変効果があったと思う。100歳体操の他にもいろいろな講座がケーブルテレビで放映されるとよい。

○自粛期間中の高齢者の見守り手段として、県外では、文通（往復はがき等）や電話での声掛け等を実践された事例がある。社会福祉協議会が自粛中の地域活動に係るマニュアルを作成している例もある。

○ケーブルテレビでの100歳体操放映や熱中症予防について、地域の高齢者に伝わっていないケースがあった。高齢者には口頭だけでなく、実物で示す等、具体的に伝えるべき。

また、体操だけでなく読み聞かせ等のほっとする講座があればよい。高齢者を対象としたマスクの支給もあればよい。

○商工会では、飲食店の経営者等が加盟している食品衛生協会があり、実践型の「手洗い教室」を実施している。ケーブルテレビでの放映メニューに加えていただけたら、感染症対策に役立てられる。

○介護現場においても、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）対策でがんじがらめになっている現状。手洗いや3密回避を呼び掛けるための、面白く分かりやすいポスターを作成している事例があり、参考になれば。

●自粛期間中の高齢者の見守り手段の全国的な事例では、高齢者が自宅玄関に安否確認のマスコットを掲げる方法やコミュニティセンターに伝言板を設置して集まらずにやり取りする方法等が見られた。このようなことを地域で実践できるか。

○地元地区では自粛期間中にも、訪問して声掛け、電話での安否確認、手作りマスクや脳トレプリントの配布等、様々な見守り活動を実施してきた。

集いの場が再開してからは、密を避けるためグループを分割したり、手洗い・消毒を徹底する等、万全の対策をしている。スタッフが参加住民に「新しい生活様式」の周知をし、コロナ禍でも、できるだけ地域活動が継続できるようにしていきたい。

また、今後新型コロナ以外の災害時にも、今回の対応を活かしていけたらよい。

○例年の地域行事が全て中止になり、地域活動が衰退化している。今こそ地域の各団体が連携し、中止となった各行事の目的を達成できるような代替案を考えていく必要がある。行政や専門職等の力も借りながら、地域特性を生かした支え合い活動を展開していくべきだ。

○感染症対策の徹底が参加者の不安を煽ってしまうこともある。誰もが感染症に敏感

になっているが、そのような中でもちょっとした楽しいアイデアで、つながりが生まれるものだと思う。

○地域包括支援センターにも、自粛期間中に、新型コロナに対する不安の声がたくさん寄せられ、対応する中で、地域の各関係機関との連携が大切であると改めて感じた。今後新型コロナ以外の災害時にも活かせる連携システムの構築が必要だと考える。

○まさに地域包括ケアシステムの構築になると思う。

(2) 地域課題解決に向けた生活支援の取り組みについて 【資料3】

○新型コロナ禍で、飲食店やタクシー業界が大きな打撃を受ける中、両者がタイアップして買い物支援を実施している事例がある。射水市でもそのような支援が生まれたらよいと思う。

○地元地区にもとくし丸が参入しており、利用者には大変好評である。市内でも移動販売を実施する事業者が増えればよいと思う。

また、訪問型生活支援について、地元地区では無償のケアネット事業で対応している。最近では、ケアネット事業として子どもの送迎も始めた。

○当方地元地区にもとくし丸が参入している。個人宅も含め、地区内の約12カ所を巡回しており、巡回場所で地域コミュニティが形成されている。運転手も地域住民のことをよく把握し、見守ってくれている。市としてガソリン代等の補助はできないのか。

●商工企業立地課では、移動販売等の買い物支援に係る補助制度を創設している。まだ実績はないが、できれば市内事業者が移動販売に参入してほしいと思っている。

○新型コロナ等の社会情勢に応じて、市は柔軟な財政対応をすべき。

●今年度は国からの新型コロナ対策に係る交付金もあるため、必要な手当てをしていく。

○訪問型支援については、地域性によって有償で実施しているところと、無償のケアネット事業で対応しているところがある。市が一覧表にまとめたらどうか。

○別の調査により、ケアネット事業の普及には地域差が大きいことが分かった。そこで、分かりやすく事業の説明をしていく必要がある。地域住民が支え合いの必要性を実感し、声をあげることが大切であり、住民の声を引き出すには、普段から顔の見える関係性をつくる必要がある。

○地域支え合いネットワーク事業が全ての振興会圏域で展開できれば、各地域間の信頼関係が構築されると思う。まずは、手探り状態でも支え合い事業を実施していただき、実施する中で地域で支え合うことの必要性を理解してもらいたい。

○生活支援において、社会福祉法人としてできることはあるか。

○地域貢献として、配食サービス、100歳体操グループへの会場貸し出し、各種物品の貸し出し、地域の清掃活動等を実施している。

〈その他ご意見等〉

○地元地区でも100歳体操やふれあいサロン等の地域活動が展開されているが、参加者が固定しているように感じるため、もっと地域活動の輪が広がればよいと思う。

来月には、民生委員と老人クラブとの意見交換会を開催予定であり、地域の支え合い体制について協議していきたい。

○地域活動の後継者不足が深刻な課題である。人と人とのつながりをマネジメントするとともに、つながりを創出するような人材を育成しなければならない。

○シルバー人材センターでも生活支援サービスを展開しているが、利用件数が少ないのは、地域での生活支援が充実しているからだと思う。様々な理由で地域の支援を利用できない方は、シルバー人材センターの生活支援サービスを利用してもらえたらと思う。

○人材育成については、ぜひ市と市社協が連携して取組んでいただきたい。

生活支援の創出については、地域毎の取組を一覧表にまとめられたい。そこから見えてきた地域資源や取組の偏り等について、今後この協議会でも協議していけたらよいと思う。